

調査結果の総括

1 就学前児童・小学生児童調査の総括

(1) 調査対象者の属性について

- ・調査の回答者、主な世話人はともに「母親」が多く、母親を中心として子育てをしている家庭が多いことがうかがえる。
- ・就学前児童、小学生児童ともに、多くの子育て家庭が親族に子育ての支援を受けられる状況にある。

調査の回答者は就学前児童、小学生児童ともに9割以上が「母親」によるものとなっており、子どもの主な世話人も「母親」が大部分を占めています。

また、子どもを預かってもらえる状況では「日常的に祖父母等の親族に預かってもらえる」割合が、就学前児童・小学生児童ともに3割前後、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族に預かってもらえる」といった割合が5～6割を占めており、多くの子育て家庭で、親族から何らかの支援を受けられる状況にあります。子どもを預けることについては約6割が「特に問題がない」としていますが、小学生児童に比べ、より年齢の低い就学前児童では、相手に負担をかけるため預けることが困難である割合がやや高くなっています。

(2) 保護者の就労状況について

- ・母親が就労している割合は、就学前児童で4割、小学生児童で7割となっている。
- ・父親、母親ともに週あたり40～49時間就労している割合が高く、就学前児童の父親の帰宅時間は「21時台以降」が約2割を占めている。
- ・就労していない母親のうち8～9割が就労への希望を持っており、その形態は「パートタイム、アルバイト等」が望まれている。
- ・母親の約5割が出産前後に離職しているが、そのうち保育サービス、職場の制度等の環境が整えば就労を継続していた割合は約3割となっている。

保護者の就労状況を母親についてみると、「就労している(フルタイム、フルタイムだが育休・介護休業中、パートタイム・アルバイト等)」が就学前児童では約4割、小学生児童になると約7割となっています。

また、保護者の就労時間をみると、就学前児童、小学生児童で父親、母親ともに「40～49時間」が最も高く、父親で週60時間以上就労している割合が約2割みられます。

現在就労していない母親の今後の就労希望では、「有」が就学前児童で9割、小学生児童で約8割となり、大部分の母親が就労希望を持っていることがうかがえます。また、その就労形態では就学前児童、小学生児童ともにほとんどが「パートタイム、アルバイト等による就労」を希望しています。

また、母親の出産前後の離職の状況では、約5割が「離職した」と回答しており、そのうち、保育サービス、職場の制度や理解、家族の理解など、何らかの環境が整っていれば就労を継続していた割合は約3割となっています。

(3) 保育サービスについて

- ・就学前児童の約6割が何らかの保育サービスを利用しており、「保育園(通常の保育時間)」の利用割合が高くなっている。
- ・利用希望としても「保育園(通常の保育時間)」が最も高くなっている。
- ・土曜日・休日の保育サービス希望は約2割、日曜日では約1割となっている。

就学前児童の約6割が何らかの保育サービスを利用しており、その中でも「保育園(通常の保育時間)」が約5割と高く、「幼稚園(通常就園時間)」が約3割となっています。

今後の保育サービスの利用希望では、「保育園」が約3割と最も高くなっています。その他では、「一時預かり」「病児・病後児保育」が約2割強となっています。実際の利用に比べると「事業所内保育施設」の利用希望が高くなっています。また、「ファミリーサポートセンター」については、実際の利用では1.6%でしたが、今後利用したいサービスとしては8.7%と、約1割の利用希望がみられます。

保育サービスを利用していない理由では「(母親や父親が就労していないなどの理由で)必要がない」や「子どもがまだ小さいため」との回答が高くなっています。

土日の保育サービスは、土曜日・祝日の利用希望がある割合(「ほぼ毎週利用したい」「月に1~2回は利用したい」を合わせたもの)が約2割、日曜の利用希望がある割合が約1割となっています。

(4) 放課後児童クラブについて

- ・放課後児童クラブは1~3年生の約2割が利用しており、就学前児童では、2割弱で小学校に入学する際の利用希望がみられる。

放課後児童クラブについては、1~3年生までの小学生児童の約2割で利用があり、就学前児童では、小学校に入学する際の利用希望で2割弱が「利用したい」と回答しています。

放課後子ども教室の利用希望は約4割となっており、高学年の望ましい放課後の過ごし方は「クラブ活動など習い事をさせたい」との回答が4割弱と高くなっています。

(5) 病児・病後児保育、一時的な預かり等について

- ・子どもの病気等により保育サービスが利用できなかったことは、就学前児童の約6割、小学生児童の約5割で経験がある。
- ・私用やりフレッシュ目的により子どもを一時的に預けたことは、就学前児童は約2割、小学生児童では3割強で経験がある。
- ・宿泊を伴って子どもを預けたことは、就学前児童、小学生児童ともに約1割で経験がある。

子どもの病気等により保育サービスが利用できなかった経験では、就学前児童の約6割、小学生児童の約5割で経験があると回答しており、その際は母親が仕事を休んで対応する割合が高くなっています。

私用やりフレッシュ目的により子どもを一時的に預けた経験は、就学前児童は約2割、小学生児童では3割強で経験があると回答しています。

宿泊を伴って子どもを一時的に預けたことでは、就学前児童、小学生児童ともに約1割で経験があったと回答しており、そのほとんどが親族や知人に預けています。

(6) ファミリーサポートセンター、地域の子育て拠点について

- ・ファミリーサポートセンターの利用は1～2%にとどまっている。
- ・地域子育て支援拠点事業は3割強が利用しており、今後は6割強が「利用したい」と回答している。

ファミリーサポートセンターの利用は就学前児童で1.7%、小学生児童で0.5%と非常に低くなっており、その利用目的は「保育施設等の利用で足りない時間を補う目的で利用している」や「保育施設等の送り迎えに利用している」などが比較的多くなっています。

地域子育て支援拠点事業の利用状況についてみると、「児童センターを利用している」が3割弱、「地域子育て支援センターを利用している」が1割弱となっています。利用希望では、「地域子育て支援センターを利用したい」が約2割、「児童センターを利用したい」が約4割と、合わせて6割強で利用希望がみられ、潜在的な利用希望者が多いことがうかがえます。

(7) 子育て支援サービスの認知度・利用経験・利用意向について

- ・いずれの子育て支援サービスについても、実際の利用に比べて利用希望が大幅に高くなっている。

就学前児童では、「保健センターの情報・相談サービス」「赤ちゃんや子どもの健康診査」「児童センター」「市からの子育て情報」などがよく知られており、利用経験では「赤ちゃんや子どもの健康診査」「児童センター」「市からの子育て情報」が高くなっています。今後の利用意向でも「赤ちゃんや子どもの健康診査」「児童センター」「市からの子育て情報」が高くなっています。

小学生児童では、「児童クラブ」「児童センター」「市からの子育て情報」の認知度が高く、利用経験もこれらで高くなっています。今後の利用意向では「児童センター」「市からの子育て情報」が高くなっています。

(8) 育児休業制度、職業生活と家庭生活との両立について

- ・仕事と家庭・プライベートの現実の優先度では、就学前児童、小学生児童のいずれにおいても仕事が優先されている。
- ・仕事と子育ての両立で大変なことは「自分の病気や子どもの病気時の子どもの世話」や「子どもと接する時間が少ない」ことが高くなっている。

育児休業は、ほとんどが「利用しなかった」としてはいますが、約2割で「母親が利用した」との回答がありました。就学前児童の父親の「利用した」割合は1.3%と父親の育児休業の取得が進んでいないことがわかります。

また、「仕事時間」と「家事(育児)・プライベートの生活時間」の優先度についてみると、特に小学生児童で、希望では「家事(育児)時間を優先」が高くなっているのに対し、現実では「仕事時間を優先」が高くなっています。

仕事と子育てを両立する上で大変だと感じることでは、就学前児童では「子供と接する時間が少ない」が高く、小学生児童では、「自分が病気・けがをした時や、子どもの急病の時に代わりに世話をしてくれる人がいない」が高くなっています。

(9) 父親の子育て参加について

- ・子どもの世話をしている父親は就学前児童では9割弱、小学生児童では8割弱。
- ・特に父親にかかわってほしい子育ての内容は、就学前、小学生児童ともに「遊び相手になる」が多い。

父親が子どもの世話を「よくする」「ときどきする」割合は、就学前児童では9割弱、小学生児童では8割弱となっています。

父親が子どもと遊んだり話をしたり「よくする」「ときどきする」割合は、就学前児童では約9割、小学生児童では約8割となっています。

特に父親にかかわってほしい子育ての内容として就学前児童では8割弱が、小学生児童では約6割が「遊び相手になる」と回答しています。「遊び相手になる」「食事をいっしょに食べる」「風呂や着替え等身の回りの世話」などでは就学前に比べ小学生児童での割合が減っていますが、「悩みごとの相談にのる」「学校や職場のことを話す」では小学生児童での割合が、より高くなっています。

(10) 子育て全般について

子育ての楽しみや不安

- ・子育ては『楽しい』と感じている保護者が半数を超えている。
- ・悩みや不安は「自分の自由な時間が持てない」こと、「子育てで出費がかさむ」ことが高くなっている。
- ・就学前児童、小学生児童ともに約3割の保護者が子どもを虐待してしまったことがある。
- ・ほとんどの保護者が子育てについての相談相手がいると回答している。

子育てについて、就学前児童、小学生児童ともに約5割が「楽しいと感じることの方が多い」と回答しています。また、子育ての不安や悩みについては、就学前児童では「自分の自由な時間が持てない」、小学生児童では、「子育てで出費がかさむ」が高くなっています。

子どもを虐待してしまったことがある保護者は就学前児童、小学生児童ともに約3割にのぼり、そのほとんどは「ヒステリックに怒鳴った」ことをその理由にあげています。

子育ての相談相手は、就学前児童、小学生児童ともに約9割が「いる」としており、その相手は「配偶者」が最も高くなっています。子育て情報は「隣近所の人・知人・友人」「親族（親・きょうだいなど）」から得ている割合が高くなっています。

子育てでサークルなど自主的な活動には約3割の保護者が参加の経験があり、就学前児童で約3割、小学生児童で約2割で今後の参加意向があります。

地域について

- ・子どもの遊び場について「雨の日に遊べる場所がない」「遊具の種類が充実していない」との回答が多い。
- ・地域に対しては、「登下校時の安全確保」「危険な遊びやいじめなどへの注意」といった支援が求められている。

子どもの遊び場について、就学前児童・小学生児童ともに「雨の日に遊べる場所がない」「遊具の

種類が充実していない」の回答が高くなっています。

子どもがよく利用する公共施設は「公園」「図書館」の順に多くなっています。子ども自身の地域活動等への参加状況では、約6割に参加経験があり、2割弱に今後の参加意向があります。

子育てについて地域に求めることでは、「登下校などに子どもたちを見守る」「危険な遊びやいじめをみつけたら、注意する」が就学前児童、小学生児童ともに約6割と、地域における見守りなどの安全確保が求められています。

また、外出の際に困ることでは、「トイレがオムツ替えや親子での利用に配慮されていないこと」が最も高く、次に「暗い通りや見通しのきかないところが多く、子どもが犯罪の被害にあわないか心配なこと」が高くなっています。

行政について

・行政に対して求めるものでは、「子連れで楽しめる場所」などの娯楽・交流面、「費用負担の軽減」などの経済面、「安心して子どもが医療機関にかかれる体制」などの医療面の支援が望まれている。

各分野の満足度では、『満足（「満足している」「まあ満足している」を合わせたもの）』の割合の高い項目は、就学前児童、小学生児童ともに「公園など、身近な子どもの遊び場」となっています。反対に満足度が低い項目は就学前児童では「妊娠・出産の経過や子どもの健診など」で、小学生児童では「碧南市における全般的な子育てのしやすさ」となっています。

「碧南市における全般的な子育てのしやすさ」の満足度では、『満足』が就学前児童で1割弱、小学生児童では1割強となっており、就学前児童でやや満足度が低くなっています。

行政に対して求める子育て支援の充実では、就学前児童では「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい」「子育てにかかる費用負担を軽減してほしい」が高く、小学生児童では「安心して子どもが医療機関にかかれる体制を整備してほしい」も高くなっています。

2 中高生調査の総括

(1) ふだんの生活について

- ・「最も時間をかけたいこと」「相談相手」などで、友だちとのつながりが最も優先されている。
- ・男性に比べ女性が多様な悩みを持つが、男性では「相談できる人はいない」割合が高くなっている。

碧南市の中高生について日常生活で最も時間をかけたいこととしては、男女ともに「友だちと一緒に遊ぶこと」が最も高くなっています。次に高い項目は、男性では「趣味の活動」、女性では「部活やサークル活動」となっています。

中高生の悩みとしては男性では「将来のこと」、女性では「勉強のこと」が最も高くなっていますが、全般的に男性に比べて女性では「身長や体重、外見のこと」や「家庭、家族のこと」など、悩みの種類が多様になっており、男性では「悩んでいることはない」が約2割と、女性の倍程度に高くなっています。

悩みごとができた場合の相談相手では、「学校の友だち」が約6割と高く、次に「母親」が約5割と続いており、この2項目が他の家族や担任の先生などと比べても格段に高くなっています。また、男性で「相談できる人はいない」が1割強となり、女性に比べて誰にも相談しない場合が多いことがうかがえます。

(2) 学校生活について

- ・学校生活は約8割が『楽しい』と感じている。
- ・学校生活では、友だちとの交流や授業内容の理解などに意欲がみられる。

学校生活については、「楽しい」と「まあまあ楽しい」を合わせた割合が8割弱、「楽しくない」と「あまり楽しくない」を合わせた割合は約1割となっており、大部分の中高生が学校を楽しんでいると感じています。

学校生活の中で求めるものとしては「たくさん友だちをつくり、楽しい学校生活を送りたい」が5割を超え、「授業の内容や、勉強がよくわかるようになりたい」が4割を超えており、友だちとの交流や勉強への意欲を持つ生徒が多いことがうかがえます。

(3) 地域とのつながりについて

- ・子どもとのふれあいの機会は女性に比べ男性で多くなっている。
- ・地域の大人たちが自分を見守ってくれていると感じる割合は約4割と、感じない割合の約3割を上回っている。

地域活動への参加経験の有無は、ほぼ半数ずつとなっており、その活動の内容は「ボランティア活動」が最も多くなっています。

小さな子どもとふれあう機会の有無については「親戚の子どもと遊んだり、ふれあっている」が男女ともに高いものの、「特にない」は女性で5割弱を占め、その他の項目も含めて男性に比べて女

性でふれあいの機会が少ないという回答となっています。

地域の大人が自分たちを見守ってくれている印象では、「感じる」「たまに感じる」を合わせた割合は約4割、「感じない」「あまり感じない」を合わせた割合は約3割となっていますが、「どちらともいえない」も3割弱となっています。

(4) 家庭について

・家族の中では「母親」と最もよく話し、内容は「学校や塾、習い事での出来事」「勉強のこと」が多い。父親とは「ほとんど会話しなない」割合も1割強となっている。

家族の中では、男女ともに「母親」と一番話をする割合が高く、「父親」は1割未満となっています。また、その内容は父親では「テレビ番組の話題」が最も高く、母親では「学校や塾、習い事での出来事」「勉強のこと」「友だちのこと」が高くなっています。しかし、父親では「ほとんど会話しなない」割合も1割を占めており、父親との会話がやや乏しいことがうかがえます。

両親に対する印象については、「愛情を持って育ててくれている」「自分のことを理解してくれている」と感じているのは7割～8割となっています。「自分のことに無関心だ」「仕事が忙しい、大変そうだ」では父親で「そう思う」「まあそう思う」を足した割合が母親を上回っています。

(5) 将来の仕事や結婚・子どもについて

- ・結婚願望は約9割が持っており、子どもの数は約7割が2人以上を希望している。
- ・結婚に対しては、男性では経済的な負担を、女性では独りの生活が気楽で楽しそう、といったマイナスイメージを持っている。
- ・将来の夢は約6割が何らかのかたちで持っている。

結婚については、約9割が将来結婚したいと考えており、約8割が男女ともに仕事や家事をする家庭を望んでいます。しかし、男性では「経済的な負担が増えるから」「結婚相手や家族に縛られたくないから」、女性では「独りの生活が気楽で楽しそうだから」や「結婚に魅力を感じないから」といった理由から結婚したくないという回答もあります。

欲しい子どもの数としては、「2人」が約6割、「3人以上」が1割となっています。

将来の夢について、『夢を持っている（「具体的な夢があり、その実現のために努力している」「具体的な夢を持っているが、まだ実現のために行動していない」「具体的ではないが夢を持っている」を合わせたもの）』割合は約6割となっています。

将来の仕事に対しては、「仕事と私生活のバランスのとれた生活」を約7割が希望しています。どのような仕事をしたいかでは、「自分の能力を発揮できる、やりがいのある仕事につきたい」が約6割と最も高くなっており、「収入の高い仕事につきたい」「失業の不安のない仕事につきたい」といった安定志向の回答も高くなっています。

(6) 碧南市について

- ・「生きがいを持って働ける場がある」市としては満足度が高いものの、身近な遊び場やスポーツのできる環境への不満度が高い。
- ・将来の市への居住意向は「わからない」が6割を超え、流動的である。
「満足している」「まあ満足している」を合わせた「満足」の割合が高い項目は、「将来、生きが

いを持って働ける場がある」となっており、「満足」は3割を超えています。一方で、「不満である」と「やや不満である」を合わせた「不満」の割合が高い項目は「公園など、身近な遊び場が整備されている」「気軽にスポーツに親しむことができる」「犯罪などにあいにくく、安全な環境である」であり、ともに3割を超えています。

また、身近な人との関係では「地域との関係」で「満足」が比較的高いものの、すべての項目で「不満」が「満足」を上回っています。

将来の碧南市への居住意向では「わからない」という流動的な回答の割合が6割を超えており、「住みたい」という回答は3割弱となっています。

3 20代～30代市民調査の総括

(1) 結婚について

- ・結婚に対する考えとしては「子ども・家族をもてる」「好きな人といっしょにいられる」「精神的に安心できる」の割合が多い。
- ・家庭での家事や家庭教育の分担は、ほとんどが「男女が協力してすべきだと思う」と回答している。

碧南市の20代～30代の市民の結婚に対する考えは、「子ども・家族をもてる」が最も高く約6割の人が回答しており、次に「好きな人といっしょにいられる」「精神的に安心できる」が続きます。「好きな人といっしょにいられる」「精神的に安心できる」「時間やお金が制限される」といった項目は女性よりも男性の方が高く、「子ども・家族をもてる」「経済的に安定できる」「家事や子育てが大変」といった項目は男性より女性で高くなっています。

家庭での家事分担では、「男女が協力してすべきだと思う」が約8割を占めています。次に高い項目は「できる人がやればよい」で2割弱と大きく差が開いています。

同様に、子育てや家庭教育についても、「男女が協力してすべきだと思う」が約9割を占め、次に高い「できる人がやればよい」は1割未満となっています。

(2) 子育てについて

- ・家庭中心の子育てを望んでいる人が多いものの、男性に比べ女性では親戚や社会からの支援を受けながらの子育てをしたいと考える人も多い。
- ・子育ては生活が楽しくなり、自分の成長にもつながるという考えの方が多くいるが、子育ては大変で経済的な負担や自由がなくなるなどのマイナスイメージを持っている人もいる。
- ・子どもをとりまく環境については、ほんどの人が変わったと「思う」と答えており、約7割が「子どもが犯罪に巻き込まれるような危険、不安が増した」と感じている。
- ・心のゆとりや自信を持って子育てするために必要なこととして半数の人が「家族の協力が得られること」と答えている。
- ・子どもたちが将来親になるために必要な経験や力として「どんなことでも相談できる人との関係を築くこと」と答えた方が5割強いる。

望ましい子育ての意向では、「あなたや配偶者を中心にした、家庭での子育て」が約4割と最も高く、次に「保育園などの社会的支援を利用しながらの子育て」が高くなっています。男性に比べ女性のほうが何らかの支援を受けながら子育てをしたいと考えていることがうかがえます。

子どもを持つことに対する考えとしては、「子どもがいると生活が楽しい」が6割を超えて最も高く、次に「子育てすると自分も成長できる」が高くなっています。女性に比べ男性が高い項目は「子どもがいると生活が楽しい」「子育ては大変だと思う」などで、男性に比べ女性が高い項目は「子育てすると自分も成長できる」「家族の結びつきを強める」などとなっています。

実際の子どもの人数が理想の人数よりも少ない理由についてみると、「これから子どもを持つつもりだから」という回答が約4割と最も多くなっています。「子育てのための経済的な負担が大

きいから」といった、経済的なことを理由とする回答は1割弱みられました。

子どもをとりまく環境については、男女ともに9割弱が変わったと「思う」と答えており、特に「子どもが犯罪に巻き込まれるような危険、不安が増した」が約7割となっています。他に「外で遊ぶ子どもを見かけなくなった、子どもの遊ぶ時間が減った」「生活が豊かになり、物やお金に対する子どもの考え方が変わった」といった項目が高くなっています。

心のゆとりや自信を持って子育てするために必要なこととしては、「家族の協力が得られること」が最も高く、半数を超えています。男性に比べ女性の回答が高い項目は「家族の協力が得られること」「近所、知人、親戚など気軽に相談できる相手がいること」などで、女性に比べ男性の回答が高い項目は、「子どもと接する時間が十分にあること」「経済的に余裕があること」などとなっています。

乳幼児とふれあう機会については、半数が「ある」と答えており、男性に比べ女性で、その割合が高くなっています。その機会としては「兄弟・姉妹や親戚の子どもと遊ぶ」が約6割と最も高くなっており、こちらも男性に比べ女性の割合が高くなっています。

子どもたちが将来親になるために必要な経験や力については、「どんなことでも相談できる人との関係を築くこと」が5割強と最も高く、次に「子育ての大変さをきちんと認識できる経験をすること」が高くなっています。

(3) 仕事や家庭生活について

- ・大人になるということは約7割が「自分の行動に責任をとれること」とであると回答している。
- ・子が親から自立する時期は、男女ともに「就職した後」が最も高く4割となっている。
- ・子どもができた場合の就労は約3割が「夫婦のどちらかが、子どもが3歳くらいになるまでは家事や子育てに専念し、その後共働き」と考えている。男性では「子どもが産まれたら夫婦のどちらかが仕事をやめて、家事や子育てに専念」との回答が高くなっている。
- ・現実には仕事時間優先の生活を送っているものの、より多くの家事やプライベートの時間を取りたいと考えている人が多くいる。

大人になるとはどういうことだと思うか、という問いについては「自分の行動に責任をとれること」という回答が約7割と最も高くなっており、次に「経済的に自立すること」が高くなっています。

子が親から自立する時期としては、男女ともに「就職した後」が最も高く4割となっています。男性に比べ女性では「結婚した後」とする割合が高くなっています。

望ましい働き方については、「自分の能力をいかした仕事をする」が7割強と最も高く、次に「安定した収入がある仕事をする」が7割弱と高くなっています。

子どもができた場合の就労については「夫婦のどちらかが、子どもが3歳くらいになるまでは家事や子育てに専念し、その後共働き」が3割と最も高くなっています。女性に比べ男性では「子どもが産まれたら夫婦のどちらかが仕事をやめて、家事や子育てに専念」との回答が高くなっています。

生活の中の仕事時間とプライベートの時間の優先度は、希望では「プライベートを優先」が約4割と最も高くなっていますが、現実には6割弱が「仕事時間を優先」となっており、男女とも

に、家事やプライベートを重視した生活をしたいと考えていることがうかがえます。

(4) 子育て全般について

- ・地域全体での子育ての取り組みは大半の人が必要だと感じており、場合に応じて子どもの手助けや保護、注意することなどが必要だという回答が多い。
- ・今後、充実を図ってほしい子育て支援は、子育てにかかる養育費の負担軽減や子連れでも楽しめる場所を増やすことといった回答が多い。

子育てに対して、半数の人は地域全体での取り組みが必要だと思うと答えており、そのために必要なこととして「子どもが危険な目に遭いそうな時は手助けや保護をする」が半数を超えて最も高くなっています。男性では「子どもが良くないことをしているのを見かけたら注意する」が半数を超えて最も高くなっており、男女ともに子どもにかかわることが必要だと感じていることがうかがえます。

碧南市は子育てしやすいまちだと思うかという問いに半数以上は「どちらでもない」と答えています。しかし、「そうは思わない」が1割弱であるのに比べ、「そう思う」は約3割と、多くなっています。

碧南市は子どもの成長・教育によいまちだと思うかという問いに対しても、約6割は「どちらでもない」と答えており、「そうは思わない」が約1割、「そう思う」は3割弱となっています。

子育て支援の充実を図ってほしい項目としては、「子育てにかかる費用負担を軽減してほしい」が6割弱と最も高く、次に「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい」が高くなっています。男性に比べ女性の回答が高い項目は「残業時間の短縮や休暇の取得推進など、企業に職場環境改善を働きかけてほしい」であり、逆に男性の回答が高い項目は「児童センターなど、親子が安心して集まれる身近な場、イベントの機会がほしい」となっています。

4 ひとり親家庭調査の総括

(1) 調査対象者の属性について

- ・調査の回答者は9割弱が母子家庭で、父子家庭は約1割となっている。
- ・ひとり親家庭になった理由で最も高いのは「離婚」で、ひとり親家庭になって困ったことは「子どもの養育、教育」や「収入がなくなったこと」が高くなっている。

調査の回答者は9割弱が母子家庭で、父子家庭は約1割となっています。子ども以外に同居している人は「いない」が最も高く6割となっており、次に「父母」があげられています。

ひとり親家庭になった理由で最も高いのは「離婚」で、7割を占めています。ひとり親家庭になって困ったことは半数の人が「子どもの養育、教育」をあげており、次に「収入がなくなったこと」が高くなっています。手当てや年金などの援護施策を知ったのは「友人、親戚から」「市役所から」がともに半数を超えています。

(2) 住まい・就労・家計の状況について

- ・住まいは「借家、アパート、賃貸マンション」が3割強、「持ち家」が3割弱となっている。
- ・ひとり親になったことで、無職から常用勤労者に就労形態が変化している。
- ・ワープロ・パソコンの特技や資格を身につけたいという人が3割いる。
- ・8割以上は勤労収入を得ているものの、半数は児童扶養手当なども収入源としている。

現在の住まいは「借家、アパート、賃貸マンション」が3割を超えて最も高くなっており、次に「持ち家」が高くなっています。現在の住まいには5年以上住んでいるという回答が7割を超えています。

就労状況については、ひとり親になる前では「無職(専業主婦を含む)」が最も高く3割を超えています。ひとり親になった直後では「臨時・パート」が、現在では「常用勤労者(正社員)」が最も高くなっています。特に常用勤労者が増え、無職が減る傾向にあり、状況に応じて就労形態が変化していることがわかります。

現在の仕事は「製造・技能・労務の仕事(製造技能工、建設技能工など)」が2割を超えて最も高くなっており、次に「事務的な仕事(一般事務、経理事務、医療事務など)」「サービスの仕事(飲食店員、清掃員など)」が高くなっています。勤続年数は5年未満が約4割となっています。

今後身につけたい資格などでは、「特になし」が4割弱と最も高くなっていますが、「ワープロ、パソコン」が次に高く約3割となっています。

現在の1か月の世帯収入は3割弱で「15万円～20万円」となっており、20万円未満という回答が半数を超えています。8割以上の人の収入源は「あなたの勤労収入」で他に「児童扶養手当」が5割、「児童手当」が4割となっており、収入だけでなく手当てに頼らざるを得ない状況がうかがえます。

(3) 子育ての状況について

- ・就学前の子どもの主な保育者は「保育所」が5割強で、「あなた自身」は2割強にとどまっ

ている。

- ・中学生の親は約5割が「高校、専修学校（高等過程）」への進学を、約4割が「大学、大学院」への進学を望んでいる。
- ・子育ての悩みとして最も高いのは「教育・進学」で5割弱が回答している。
- ・本人が病気の際に世話人が「いない」という回答が3割弱ある。
- ・行政に望む子育て支援施策としては、費用負担の軽減がもっとも高く、他に住宅の支援や医療機関の整備が高くなっている。

就学前の子どもの主な保育者は「保育所」が5割強となっており、「あなた自身」は2割強にとどまっています。小学生の放課後の過ごし方は8割が「自宅で過ごしている」と答えており、群を抜いて高くなっています。

中学生の親が望む子どもの進路は、「高校、専修学校（高等過程）」が約5割、「大学、大学院」が約4割となっています。

子育ての悩みとして最も高いのは「教育・進学」が5割弱となっており、次に「しつけ」「就職」が続いています。

本人が病気の際の主な世話人は「別居の親族」が4割と最も高く、次に「同居の家族」となっていますが、「いない」という回答も3割弱あります。子どもが病気の際の主な世話人は「あなた自身」が8割強と最も高く、「同居の家族」「別居の家族」は3割弱となっています。

行政に望む子育て支援施策としては、「子育てにかかる費用負担を軽減してほしい」が突出して高く7割弱となっています。他に「福祉向の優先入居や広い部屋の割り当てなど、住宅面の配慮がほしい」で3割、「安心して子どもが医療機関にかかれる体制を整備してほしい」で2割の回答がみられます。子育てにかかる費用を中心に、住宅面や医療面への希望が強いことがうかがえます。

（４）生活全般について

- ・8割が生活全般の悩みを感じており、その内容は生活費や子ども、仕事のことなど多岐にわたっている。
- ・行政の施策で要望することは「学費、通学交通費などの就学援助」が突出して高くなっている。

生活全般についての悩みが「ある」という回答は8割に上り、その内容は「生活費のこと」が7割弱、「子どものこと」「仕事のこと」が4割強となっています。悩みの相談相手は「友人・知人」が最も高く6割弱となっており、次に「父母」が3割強となっています。

県・市町村の施策で要望することは「お子さんの学費、通学交通費などの就学援助」が突出して高く6割に上っており、次に「遺児手当の充実」が3割弱となっています。